



海岸の夕暮(2024年11月)

脇本海岸 渚だより

他の記事もFBページをご覧ください
<https://www.facebook.com/kamechidori>

NPO法人

脇本海岸ウミガメ・シロチドリ会

第12号(期間:2024年10~12月)

馬場集落高齢者学級の岩船海岸勉強会

10月の晴天の下で第3回となる勉強会が開催されました。岩船海岸の林少佐の碑の前で、紫電改の墜落の状況などを聞いていただきました。太平洋戦争で墜落した残骸は岩船沖の砂にほとんど埋もれてしまっていることをNPOカメチドリで確認しており、その場所を海岸から見ながら思いを馳せられたことと思われます。



脇本小学校の親子の自然保護の理解度向上



脇小3年生はすでに当NPOから脇本海岸のウミガメのことは学んでいます。10月に鹿児島水族館の出張講座で、ウミガメ全般の奥深い知識を学びました(写真は、講座後、柏木学芸員の教壇に質問に集まる小学生)。また、11月の脇小PTA総会で脇本海岸の保護活動を聞いた親からは、「ウミガメが産卵する貴重な海岸であることを知った、大切にしたい」と声が上がっていました。

海岸防風林のカズラ切り作業

令和6年3月に続き、第2回目の海岸防風林清掃を令和7年3月に予定しています。その準備作業として防風林に絡みついている葛(カズラ)の切断と、枯れ木や倒木を除去する作業を11月24日に行いました。グランピングと市林務係の若い人にも参加してもらいました。清掃イベントは令和7年3月9日9時からの予定です。皆様の参加をお待ちしています。



愛宕山のベンチ(2台)を海岸に移設

4月に脇本浜側の崖が崩落して立ち入り禁止となっていた愛宕鼻にあるベンチと、ゆかりのある記念写真看板を移設しました。11月末の天気の良い日だったので、鼻からの東シナ海と脇本海岸の眺めは最高でしたが、このベンチに座って見ることはもうできません。掘り起こしたベンチの支柱は太くて長いため(写真)掘り出しと搬出は大変でしたが、何とか海岸に移設できました。



←4人で掘出し

海岸中央 →
付近に移設



(特集) ハマグリ保護は待ったなし

脇本海岸ではハマグリが自由に採れることが知れ渡り、市外や時には県外からも採取に来る人が増えています。天然モノが採れる砂浜は日本でも珍しい海岸なのですが、1cm程の稚貝まで持ち帰る人もいます。昔と比べて個体数が減っており、このまま放置すればいなくなると危惧しています。

「天然ハマグリ採れる海岸」を脇本海岸の代名詞として、子どもたちが海水浴や散策時に貝探しで楽しめる場所として後世に残したいという思いで、以下のような活動をしています。皆様のご理解とご支援をよろしくお願い致します。



4～5月 100人以上の潮干狩り客でにぎわう

ハマグリ個体数調査

鹿児島大学水産学部と令和5年から合同調査をしています。調査結果はNPO内と市の関係部署を集めて今年3月に発表会を行いました（渚だより9号に掲載）。令和6年も10月に追調査をしました。今後、経年変化を数値できちんと把握しながら、これからの施策の有効性を確認していく予定です。

ハマグリ保護の看板を設置（右の写真）

ハマグリは絶滅危惧種であることを訴えて、他の海岸でも一般的になっているように小さな貝は採らないように促す看板を、海岸協議会で決めて海岸への降り口に設置しました。



市水産係と漁協に看板設置を要請

現在設置している上記の看板は、潮干狩り客へのお願いベースの看板であり、法的な拘束力はありません。心無い人は、この看板を見ても行動には移さない可能性があるため、漁協として資源確保の視点から使用道具なども注意できる看板を立ててもらえないか申し入れています。

- ・熊手などの大型道具の禁止
- ・細かい目の網でござり採取できる道具の禁止
- ・貝の生育期間の確保（例；10月～4月採取制限）など。



網付の熊手でござり

グランピング宿泊客へも保護のお願い

海岸でお客を迎える事業者にも保護を訴えたところ、グランピング事業責任者も従業員も大切さを理解して、さっそく採取できる貝の限度見本を作成されて、お客様に3cm以下のハマグリを放流をうながしてもらえることになりました。このように地域と海岸を利用する事業者が一体となって守ることができれば、日本有数の「天然ハマグリ海岸」が継続できると考え、他の事業者にも協力をお願いしていくことにしています。

ハマグリ寸法（殻高）



・中央のペットボトルの蓋（直径3cm弱）を目安にすればわかりやすい

・ナンゲは成貝で2，3cmであり採取可